

龍谷大学連携事業（社会学部後期科目「まちづくり論」）について

1. 経過

年月	内容
平成29年 7月11日	龍谷大学と互いの人的および知的資源の交流と物的資源を活用し、地域社会の発展と人材の育成に寄与することを目的として包括連携協定を締結。
平成30年度～ 令和2年度	<p>包括連携協定に基づく取り組みの一つとして、大学からの依頼を受け、平成30年度から本市職員（政策調整課 竹山課長）が授業全体をコーディネート。講義の一部において、各担当課が実施する施策を担当課職員がゲストスピーカーとして登壇し講義を行った。</p> <p>最終は、本市の取り組みに対して学生からの意見（政策提案レポート）が提出され、竹山課長と事務局等にて審査を行った。また、閉講後にはコーディネーター・ゲストスピーカーによる職員向け成果報告会を開催し、情報共有を行った。</p> <p>ゲストスピーカー登壇数</p> <p>平成30年度：5部局7名 令和元年度：7部局9名 令和2年度：6部局9名 令和3年度：4部局6名 令和4年度：4部局5名 令和5年度：5部局6名</p>
令和3年度～	<p>令和2年度までの結果から大学側と協議を行い、実施方法の見直しを行った。見直しを行った理由は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●大学は自治体職員によるまちづくりの生の声をきくことができるが、本市についてはメリットが少なかったこと ●学生の提案から本市施策への実現にまで至っていないこと <p style="text-align: center;"></p> <p>上記の理由から以下の内容に変更</p> <ul style="list-style-type: none"> ●栗東市と大学講師の役割の明確化を行う <p>栗東市</p> <p>政策・協働に視点を置き、本市概要と政策課題を紹介し、学生からの課題解決策の提案を大学講師と共にファシリテートする。</p> <p>大学講師</p> <p>授業の進行は大学講師が主となって行う。また、学期成績についても担当講師が行う（政策提案や発表に関する成績は市が中心）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●まちづくり論参加者の変更 <p>まちづくり論参加者は「まちづくり人材養成プログラム参加者」、「ファシリテーション内部講師」などから選定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●政策課題募集と学生からの解決策提案（～令和4年度） <p>本市の政策課題を募集し、学生から提案された解決策を次年度に具体的な施策検討を行い、次次年度に政策として実施していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●<u>学生からの栗東市の魅力発信・PR提案（令和5年度～）</u> <p>本市事業の周知物を学生に作成いただき、動画等を活用していく。</p>

2. 実施目的

●まちづくり課題に向き合う人材育成

人材育成の一環として職員を派遣することで、協働に対するスキル向上や政策課題の解決策の模索に繋げることができる。

●外部人材確保と地域で活動する学生人財の発掘

学生が講義を通じて本市の取り組みを学ぶことで、本市に関心を持ち、大学を通じた本市への参画やインターンシップを通じた本市職員への就職等により、本市のまちづくりに関わることが期待できる。また、大学職員や教員との連携強化により、本市事業への協力が期待できる。

●学生成果物の活用

学生成果物については、担当課にて活用するだけでなく、事務局（人事課、自治振興課、政策調整課）にて、その他の活用方法を検討する。

3. 令和6年度実施内容

別紙（令和6年度 まちづくり論 講義計画（案））参照

●昨年度からの変更点

- ・テーマ紹介方法の変更
- ・栗東市参加回の縮小（理由については「5. 令和7年度龍谷大学社会学部移転について」を参照）

4. 令和5年度の学生成果物について

令和5年度は、テーマを各課に募集し、募集で集まった中から龍谷大学の担当講師と協議の上3つのテーマを選び実施した。テーマおよび作成された周知物は下の3つ。

テーマ	担当課	周知物	活用方法
市民活動団体支援制度の活用	自治振興課	チラシ	—
職員採用試験PR	人事課	動画	・市HPにて活用
ごみの分別徹底及び適正なごみの排出の周知について	環境政策課	動画	・市YouTubeにて活用 ・栗東市生活環境保全推進会議で上映

5. 令和7年度龍谷大学社会学部移転について

令和7年度に龍谷大学社会学部が瀬田キャンパスから深草キャンパスへ移転することに伴い、連携事業の「まちづくり論」の在り方についての検討を行う必要がある。

市、大学ともに移転後も連携事業を継続したいという思いがあるが、市職員がほぼ毎週龍谷大学へ赴き、メインで講義を実施している状況に近いため非常に負担が大きい。そのため、令和6年度より龍谷大学の担当講師メインの講義となるようシフトチェンジを開始し、移転後も継続できるよう体制を変更していく予定。

令和6年度 まちづくり論 講義計画（案）

回	日程	タイトル	担当	概要
1	9/19	オリエンテーション	渡邊先生、栗東市	講義概要 地方創生と栗東市の概要
2	9/26	まちづくりとは	渡邊先生、栗東市	まちづくりとは 市の魅力発見
3	10/3	ケーススタディ①	渡邊先生	
4	10/10	ケーススタディ②	渡邊先生	
5	10/17	ケーススタディ③	渡邊先生	
6	10/24	ケーススタディ④ グループ分け説明	渡邊先生	<u>Zoomでの市テーマ紹介を廃止し、学生への課題として資料提供し、希望テーマを選択してもらう</u>
7	10/31	ケーススタディ⑤ グループ分け発表	渡邊先生	グループ発表、役割決定、
8	11/7	グループワーク①	渡邊先生、栗東市	提出物説明、成果物内容・イメージ作成
9	11/14	グループワーク②	渡邊先生、栗東市	成果物作成、現場見学（撮影、取材等） 計画作成
10	11/21	グループワーク③	渡邊先生、栗東市	ワールドカフェ、 現場見学（撮影、取材等）計画作成
11	11/28	グループワーク④	渡邊先生、栗東市	現場見学・インタビュー、現場見学（撮影、取材等）計画作成
12	12/5	グループワーク⑤	渡邊先生、栗東市	現場見学・インタビュー、現場見学内容の反映
★	随時	現地見学・インタビュー	渡邊先生、栗東市	
13	12/12	グループワーク⑥	渡邊先生、栗東市	現場見学内容の反映、発表準備 インターンシップ説明
14	12/19	プレ報告会	渡邊先生、栗東市	練習発表、提案内容の最終調整
15	1/9	報告会	渡邊先生、栗東市	提案発表、質疑応答、審査、まとめ

令和5年度 まちづくり論 講義計画

回	日程	タイトル	担当	概要
1	9/21	オリエンテーション	渡邊先生、栗東市	講義概要 地方創生と栗東市の概要
2	9/28	まちづくりとは	渡邊先生、栗東市	まちづくりとは 市の魅力発見
3	10/5	ケース①	渡邊先生	栗東市は不参加
4	10/12	ケース②	渡邊先生	栗東市は不参加
5	10/19	ケース③	渡邊先生	栗東市は受講者として Zoom にて参加
6	10/26	市テーマ紹介①、②	渡邊先生、栗東市	①市民活動団体支援制度の活用について ②職員採用試験 PR について 栗東市は Zoom にて参加
7	11/2	市テーマ紹介③ グループ分け説明	渡邊先生、栗東市	③ごみの分別徹底及び適正なごみの排出の周知について 栗東市は Zoom にて参加
8	11/9	グループ分け発表 グループワーク①	渡邊先生、栗東市	グループワークルール、役割決定、 提出物説明、企画概要の検討
9	11/16	グループワーク②	渡邊先生、栗東市	成果物内容・イメージ作成
10	11/3	グループワーク③ (休講)	—	成果物作成、(現場見学(撮影))
★	12/4	栗東市環境センター見学 (ゴミチーム)	栗東市	環境センターの見学、撮影
11	12/7	グループワーク④	渡邊先生、栗東市	ワールドカフェ、 現場見学(撮影、取材等) 計画作成
★	12/11	栗東市職員インタビュー (職員採用チーム)	栗東市	栗東市職員へのインタビュー 栗東市内風景撮影
12	12/14	グループワーク⑤ (休講)	—	現場見学・インタビュー
13	12/21	グループワーク⑥	渡邊先生、栗東市	現場見学内容の反映、発表準備 インターンシップ説明
14	1/11	プレ報告会	渡邊先生、栗東市	練習発表、提案内容の最終調整
15	1/18	報告会	渡邊先生、栗東市	提案発表、質疑応答、審査、まとめ
★	1/24	追加撮影 (ゴミチーム)	栗東市	栗東市役所にて追加撮影

まちづくり人材養成プログラムの概要について

1. 背景

社会状況の移り変わりにより、本市を取り巻く環境も大きく変化している。その変化に伴う課題は、行政だけで対応できない内容が増えており、市民や各種団体、事業者などと協働しての課題解決が求められている。

本市においても、栗東市第六次総合計画の重点施策として「市民参画と協働の推進」が明示されるなど市の方針の中にも位置付けている。

協働の考え方に対する必要性が高まる一方で、市職員の知識習得やノウハウの形成を通常業務の中で培うことは難しく、研修についても計画的な実施ができていない状態であり、そのため、協働の考え方に対する知見を有し、本市の取り組みを推進できる人材を育成する必要がある。

2. 目的

協働の考え方に対する知見を有し、業務のみに囚われない政策的視野を持った人材を育てる。

- 現代に求められる協働の考え方において、職員が共通理解すべき内容を把握し、将来的に協働に対して指導可能なスキルを持つ人材を育成し、明確化する。
- 本市が抱える協働のまちづくりにおける課題を情報共有し、所属を越えて課題解決に向けた情報提供等が行える人材を育成し、明確化する。
- 上記2点に関わる知識や能力を持った人材を育成し、後継していくため、継続的な研修プログラムの構築を図り、栗東市第六次総合計画「市民参画と協働の推進」を促進させる原動力とする。

3. プログラム候補者の選定

デスクネットネオのインフォメーションにて募集を行い、推薦等でも候補者を選定する。前年度参加者へは個別に参加の可否を聞き取る。

4. プログラム内容

集合研修

- 「栗東市観光まちづくり研修」の受講

講師：内部講師（商工観光労政課 木村氏を予定）

内容：栗東市の観光について講義で学ぶだけでなく、現場実習も行うことで、観光面からのまちづくりを学ぶ。

方法：対面

時期：11月頃実施予定（3時間程度）

派遣研修

●龍谷大学社会学部「まちづくり論」の参加

講師：龍谷大学社会学部コミュニティマネジメント学科

講師 渡邊 悟史氏

内容：まちづくりを取り巻く社会環境や理論を理解する。また、栗東市のまちづくりにおける政策や魅力について学び、本授業においてその概略を学生へ紹介することで、協働まちづくりにおけるワークショップの模擬的実践を行う。

方法：【受講】

まちづくり論の講義回を学生と共にオンライン又は対面により受講する（1コマ90分×1～2コマ）。まちづくり論後半のグループワークにおいては、本市ワークショップファシリテーター指導者と共に学生の政策提案をフォローする。

【資料作成】

本市の魅力発信・PR提案事業の説明資料を作成する。

●龍谷大学社会学部「コミュニティ論」の参加

講師：龍谷大学社会学部コミュニティマネジメント学科

准教授 坂本 清彦氏

内容：「コミュニティ」にまつわる様々な概念や理論を学び、今の時代に「コミュニティ」なるものがなぜ必要であるのかと同時に厄介な存在であるのかを考察し、「コミュニティ」とどのように生きていくべきなのかを考える。

方法：オンライン又は対面により、学生と同じように参加をする（1コマ90分×5コマ程度）。特にまちづくりにおいて知るべき部分を選定して参加する。（既に昨年度までに受講している者については他の講義への参加を検討中。）講義内のディスカッションについては、ディスカッションリーダーとして職員が学生と共に参加する。

5. 令和6年度スケジュール案

8月～9月 まちづくり人材養成プログラム候補者募集と決定

9月～2月 集合研修、派遣研修の実施

2月～3月 受講者アンケート、まちづくり研究人材登録、次年度プログラム検討等